

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】令和1年5月9日(2019.5.9)

【公開番号】特開2019-32328(P2019-32328A)

【公開日】平成31年2月28日(2019.2.28)

【年通号数】公開・登録公報2019-008

【出願番号】特願2018-161024(P2018-161024)

【国際特許分類】

G 01 N 33/15 (2006.01)

G 01 N 33/50 (2006.01)

A 01 K 67/027 (2006.01)

【F I】

G 01 N 33/15 Z N A Z

G 01 N 33/50 Z

A 01 K 67/027

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月26日(2019.3.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

個体におけるうつ病を促進する能力について薬剤をスクリーニングするための方法であって、

内側前頭葉前部皮質(mPFC)興奮性ニューロンにおけるニューロン活動の活性な光遺伝学的活性化因子を発現する齧歯動物を薬剤に接触させること、および

うつ病アッセイにおける前記齧歯動物の挙動に対する前記薬剤の効果を決定することを含み、

前記薬剤に接触させなかったコントロール齧歯動物の挙動と比較したときの、前記薬剤に接触させた前記齧歯動物の抑うつ性の挙動が、前記薬剤がうつ病を促進することを示す、方法。

【請求項2】

前記活性な光遺伝学的活性化因子がチャネルロドプシンである、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記接触させることが、前記光遺伝学的活性化因子を活性化する波長の光に背側縫線核(DRN)を曝露することの前に、または並行して実施される、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記mPFC興奮性ニューロンにおけるニューロン活動の活性な光遺伝学的活性化因子が、配列番号：5に示すアミノ酸配列に少なくとも約90%のアミノ酸配列同一性を有するアミノ酸配列を含む光応答性カチオンチャネルタンパク質である、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記mPFC興奮性ニューロンにおけるニューロン活動の活性な光遺伝学的活性化因子が、小胞体搬出シグナルおよび膜輸送シグナルを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記小胞体搬出シグナルが、アミノ酸配列 F C Y E N E V (配列番号：13) を含む、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

前記膜輸送シグナルが、配列番号：17に示すアミノ酸配列を含む、請求項5に記載の方法。

【請求項8】

前記うつ病アッセイが、強制水泳試験、尾懸垂試験または条件付き場所嗜好試験である、請求項1に記載の方法。